

看護婦の心！親の心？

佐藤 陽子

看護師の佐藤です。この度、産休では皆様にご迷惑をおかけしました。おかげさまで無事出産することができました。5年ぶりの出産を経て職場復帰するまでに経験した、ちょっと心配だった話を聞いてください。

職場復帰を9月16日に控えた二連休前の13日。オムツ交換の時に足を触ると熱い。体温を測ると38℃。えっ本当に1ヶ月で、ちょっと心配…。これは川村先生に診てもらわねばということで受診。発熱して1日目でしたが、3ヶ月前の発熱なので血液検査をして頂きました。幸い結果には異常なしということで薬を頂いて帰ることに。でも、川村先生はそのまま「さようなら」と帰らせる小児科医ではありません。連休中のことまで考えてくれる先生。熱が続いた時に病院でしっかり診てもらえるように、他の患者さんと同じように、急変時に病院を受診できるように紹介状を持たせてくれました。「使わないのが一番いい。御守りに持っていきなさい。」とお母さん方に話します。するとお母さんは、心配顔から笑顔になって帰ることができるようです。私も同じでした。薬の他に『安心』も処方してもらって帰りました。連休中は微熱程度で徐々に下がってきたので、「きっと御守りの効果に違いない」と思いながら、保育園の準備をして眠りにつきました。ところが、夜中の授乳の時「なんか熱い」、熱を測ってみるとなんと38.2℃。朝になっても下がらず朝一番に受診。再度血液検査。結果は同じ。一般状態はいいので家で様子を見ることに。そして午後には、38.4℃に。どうしよう、もう一回受診しようか。でも検査もしてあるし…電話してみようかと悩んでいると、突然電話が鳴りました。電話の相手は看護師の中米さん。この世に以心伝心ってあるんだ!!と感激。そしてすごくホッとしました。

主人や姑の心配もあり、生後3ヶ月前の発熱なので、念のためにこども病院に経過観察と検査のための入院となりました。検査が終わり、その後病室へ。看護師さんに病棟内を説明してもらうためにエレベーター付近へ行くと、なんと川村先生が。何故ここへ。入院した患者さんの様子を

みるために、先生が病院へ行くことは知っていましたが、まさか自分までもという気持ちで、すごく驚いただけでなく、嬉しさもいっぱいでした。担当の虻川先生と一緒に来てくださり、虻川先生には検査結果や治療方針を丁寧に説明して頂きました。虻川先生は、川村先生とどこか似ているところがあって、同じオーラが出ているように感じました。川村先生と並んでいると、ダブルのオーラで、私は“安心感”で心満たされてしまいました。息子もそのオーラを感じたのか、その後から微熱になり、次の日からは平熱になりました。



検査の異常もなく退院の日、虻川先生には「なんだか何もしませんでした…」とおっしゃられたので、私は「大きな安心を頂きましたので」と言いました。今回のことで「母親」とは、心配する生き物だということを実感しました。当院を受診するお母さんを見て「こんなに子どものことを心配してあげられるってすごいなあ…こんなに思われている子どもは幸せね…」と思っていました。今まで上の子は大きな病気をすることはありませんでした。保育園に2ヵ月から行き始め3年間は、咳、鼻水は当たり前。発熱も当然のこと、ひどい時には1ヵ月に4回毎週熱が出たこともありましたが、でも、たくさん風邪をひくことに対して、あまり心配することはありませんでした。いつも川村先生のお母さんにするお話を聞いていたので、「この子は、今のうちにたくさん風邪をひいて、いろいろな風邪の免疫をつけて頑張っているんだ」と見守ってあげることができました。5歳の兄は今ではめったに風邪をひかなくなりました。でも私は母親としては、考えがちょっとあっさりしすぎていたかもしれません(笑)。

今回、上の子では経験しなかったことで、心配は大きくなるばかりで、すっかり“心配性の母親”になってしまいました。川村先生は、ふだんから診察で気になった子どもさんのお家に、その日の午後や次の日に看護師に電話で状態を聞いてもらうようにしています。電話口のお母さん方は、クリニックからの電話をととても喜んでいらっしゃいます。今回、患者としてクリニックからの電話をもらい、電話の意味合いを実感することができました。まるで、神様から救いの手が降りてきたような気持ちでした。子どもの入院というのはいい経験ではありませんが、お母さん方の心を知るにはとてもよい経験でした。これからも、経験を仕事に生かして、クリニックの理念である「お母さんの不安・心配の解消」に、努めていきたいと思っております。



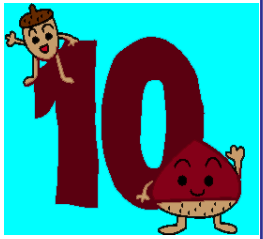
10月のお知らせ

- ・10月11日(土) 午後休診
教育検討会(福岡)参加のため
- ・東北大学医学部学生実習
10月10日(金)、31日(金)
ご協力をお願いします。



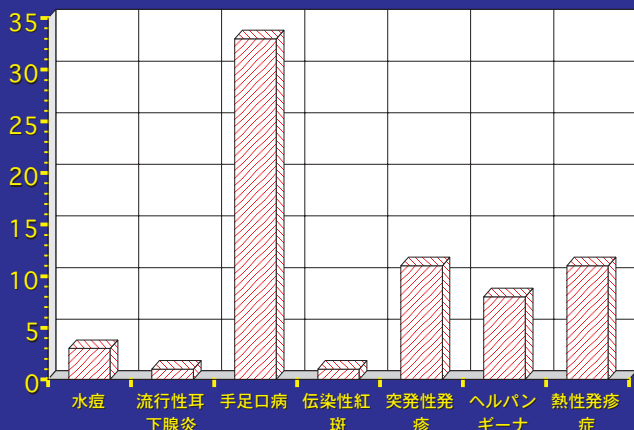
読者の広場

先月は9通のメールを頂きました。実は8月に赤ちゃん誕生のメールを富谷町の川田さんから頂きました。紙上で紹介しようと思ったのですが、連絡が取れずに1カ月遅れの掲載になってしまいました。承諾を得ることができたので、紹介したいと思います。「ご無沙汰しております、富谷町の川田です。8月16日に、家族が増えました。男の子です。家族みんなの立会いの下、元気に産まれました。名前は、『健慎(けんしん)』といいます。2人のお姉ちゃんにもみくしゃにされながら、たくましく育ってくれることを願っています。これからも、彩乃・栞子共々お世話になります。よろしくお願いたします」。待望の男の子(?)の、ご誕生おめでとうございます。こんな報告は、クリニックにとってすごくうれしいものです。健やかな成長をお祈りしています。クリニックにお世話になるのは、やっぱり少ない方がいいです



すね。記念に、カラー印刷で新聞を差し上げます。お誕生の記念になると思います。次は以前から新聞に“お店や会社を紹介してみませんか”と案内していました。第1号の掲載希望の青葉区の堀江さんからのメールです。「川村先生、こんにちは。堀江陽茉莉の母です。先日のお母さんクラブでは今年もかわむら先生のお母さんクラブだからこそこの貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました！そしてこの度、毎回、愛読させて頂いているクリニックの新聞にうちのヘアサロンの広告も掲載させていただけると聞き、本当に嬉しく思っております！お店が先生のクリニックのすぐそばという事もあり、先生の所に通っている周辺のお母さん方にリフレッシュの場所として利用してもらえたら、と思っていた矢先の事でしたので、本当に有り難いお話でした。直接、お礼に伺いたかったのですが、少しでも早く先生に診てもらいたい患者さんの中にお邪魔するのも逆に迷惑かと思い、失礼かとは思ったのですが、メールでお礼を伝えさせて頂きました」。お母さんクラブへの参加だけでなく、お店紹介にも協力してくれて、ありがとうございます。新聞を通して、様々な形で患者さんとのコミュニケーションをはかっていきたいと思っています。もう1通は太白区のOさんからです。プライバシーに関わることなので、あえて匿名にしました。「深夜に失礼しますm(_ _)m〇〇×××と△△の母です。先日は△△が大変お世話になりました。急きょ入院ということでしたが、ご連絡していただいたおかげで無事職場の病院に入院することができ、とても安心しました。付き添いしながら台間をぬって仕事もちょこちょこできました。何より良かったのは、入院患者さんとそのご家族の立場を実体験できたことです。特に私は今小児科病棟を担当しているので、患児に付き添っているお母さんの気持ちがよくわかりました。ふだんは職員として歩いている病棟や院内全体も、患者として動いてみるといろいろと気になる点が見つかり、あらためて患者・家族支援を行なっていくうえで良い勉強になりました。△△もたくさん痛い思いや怖い思いをしましたが、今はすっかり元気になって、ちょっぴり大人びた顔になりました。パパの予定入院に始まり、×××の緊急入院、△△の緊急入院と続いた我が家ですが、ようやく家族全員がそろって一安心です。×××の緊急入院のときは、近所の整形外科から紹介された病院が完全予約制で診てもらえず、紹介元の医師の不親切で無責任な対応に振り回されたという経緯があっただけに、今回の△△の入院では信頼しているかわむら先生はじめスタッフの方々の迅速丁寧な対応に心強さを感じました。あらためて信頼できるかかりつけ医がいるって大事ななあと思いました。とにかく今回はありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します！！」。一面記事と共通部分があるので、掲載しました。入院という嫌な経験ですが、患者さんの立場に立ってみたいとわからないことがあります。経験を活かして、入院中のお母さんをサポートしてあげてください。

9月の感染症の集計



手足口病は名前の通り手と足と口に発疹が出る病気です。発熱は少なく、症状は比較的軽症です。ウイルスの排せつ期間が長いので、登園登校停止の必要はありません。他には特に流行している病気はありません。気温の差が大きくなり、喘息が目立ってきました。

hair make natural ~ナチュラ~

高松2-11-79 022-271-8117

美容室に行きたい！でも子供が小さくてなかなか…。そんなママ達必見です！

小松島児童館隣、白い看板が目印のhair make natural~ナチュラ~は美容室と理容室のよい所を合わせたユニセックスサロンです。オーナーが完全担当、一時間帯お一人様のみ施術なのでお子様が一緒でも他の方を気にする心配が一切なし☆ぜひ一度リフレッシュしにいらして下さい
クリニックNEWS持参の方トリートメントサービス！(平日)

編集後記

他人の気持ちは、その人の立場に立ってみたいとわからないものです。単に患者さんと医療職というだけでなく、どんな関係も同じです。子どもの気持ちを理解するためには、子どもの立場にならないと。夫婦も同じで。何かこの記事が役立てばと思います。



K's clinic